

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【東牟婁振興局】 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】
～イチゴ炭そ病対策研修及びイチゴ炭そ病の簡易検定を実施～

令和4年6月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-3
1. 令和4年度和歌地方生活研究グループ連絡協議会が総会及び研修会を開催	
2. 新規就農者研修（野菜コース）を開催	
3. ニンジンの優良品種試験を実施	
4. 農業学習会で田植え体験を開催	
5. 海南市立内海小学校でうめ出前授業を実施	
II 那賀振興局	4-6
1. クビアカツヤカミキリの防除啓発活動を実施	
2. 地域ぐるみでのクビアカツヤカミキリ警戒	
3. 食育・交流活動の実施 ～紀の川市環境保全型農業グループ・那賀地方有機農業推進協議会～	
4. 黒豆定植イベントを開催 ～紀の川市鞆渕地区～	
III 伊都振興局	7-8
1. クビアカツヤカミキリ特別警戒調査の実施	
2. 食育活動として小学校へのうめの出前授業を実施	
IV 有田振興局	9-12
1. 宮原小学校で和歌山県の果物について授業を開催！	
2. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催！	
3. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」侵入実態巡回調査	
4. 有田農業技術者会総会及び研修会を開催	
5. 御霊小学校でみかんの摘果授業を開催！	
V 日高振興局	13
1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】 ～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～	
VI 西牟婁振興局	14
1. 田辺第一小学校で「うめの出前授業」を実施	

Ⅶ 東牟婁振興局

15-16

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】
～イチゴ炭そ病対策研修及びイチゴ炭そ病の簡易検定を実施～
2. くろしおナス組合が現地検討会を実施
3. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催

Ⅷ 農林大学校

17-18

1. G A P 講義・M P S 及びG A P 演習を実施
2. 2年生のインターンシップ研修

I 海草振興局

1. 令和4年度和海地方生活研究グループ連絡協議会が総会及び研修会を開催

6月30日、海南省農村婦人の家において、和海地方生活研究グループ連絡協議会（会長：大西順美氏）が総会及び研修会を開催した。

総会では役員改選があり、新会長に田端和美氏が選出された。その後、会員から要望のあったジビエについて研修会を開催し、畜産課衛生・環境班の上田課長補佐兼班長、南主事、農業水産振興課の仲主査より「わかやまのジビエ」について説明があった。会員から「どこで捕獲したイノシシでも食べられるのか」、「ハコわなも免許がいるのか」などの質問があり、ジビエだけでなく海草地域の農産物被害状況、鳥獣害の対策などについて知識を深める機会となった。



ジビエ研修会

2. 新規就農者研修（野菜コース）を開催

農業水産振興課は、新規就農者の技術向上や定着を目指し、6月17日に研修会を開催し、5名が参加した。講師に就農10年目の海南省の中西農園 中西康介氏を招き、農業経営や販売方法についての講演と、ほ場見学を行った。

講演では、農業をする上で「100年先も続く農業経営、小さくて強い農園を目指す」という理念を持って経営目標を立て、ライフワークバランスのとれた経営をしているなどの話が聞けた。その後、ミニトマト「美味房」※のハウスや、夏に観光農園として活用するブルーベリー園を見学させてもらいながら意見交換を行った。

参加者からは、「経営の中身まで詳しく教えてもらい、参考になった」、「理念をもって農業に取り組んでいるところが、大変勉強になった」などの感想が聞けた。

就農後活躍している先輩の話を新規就農者に聞いてもらう場を設けることで、これからの農業経営のヒントにしてもらえる機会になった。また、講師の中西氏と参加者同士で交流を深めることもでき、有意義な研修となった。



中西氏による講演



ハウス見学

※「美味房」はJAながみねミニトマト部会が生産する高品質ミニトマトで、特別栽培農産物に認定

3. ニンジンの優良品種試験を実施

和歌山市布引や毛見の砂地地帯はニンジンの産地であり、6月上旬から7月中旬にかけて収穫され、京阪神市場へ出荷される。

この時期に栽培する春ニンジンには3月上旬に播種するため、生育初期の低温で根部形状が長くなりやすく、また抽台しやすい。農業水産振興課では、JAわかやまと連携して、先詰まりがよく、抽台しにくい品種を選定するため、現地試験を行っている。

6月9日、14日、24日の3回に渡り、3月上旬に播種した5品種の調査を行い、ニンジンの長さ・太さ等の形状の他、抽台の有無、病気の程度、色や糖度等を計測し、慣行品種との比較を行った。

今回の結果により、供試した5品種のうち1品種において、形状や色、病気の程度など全ての項目で、慣行品種より有望であることがわかった。今後、この品種について、現地試験の面積を増やす拡大試験を実施するかどうか、生産者や産地の関係者と検討する。



調査の様子



品種比較

4. 農業学習会で田植え体験を開催

農業水産振興課では、小学生を対象に、農業や地元の農作物に興味、関心を持ってもらうため、出前授業や体験学習の指導に取り組んでいる。

6月16日、和歌山市梅原の貴志正幸氏の水田において、和歌山大学教育学部附属小学校5年生92名を対象に田植え体験を開催した。

貴志氏から田植えの方法や、田の中での歩き方などについて説明を受けた後、田植え作業を体験した。大半の児童は経験が無く、植え方が浅かったり、条間を間違えたりしていたが、貴志氏の指導を受けながら作業を進め、田植えについて学んでいた。

作業後には、小学生から貴志氏に、食料自給率や農業にかかる経費などについて質問があり、農業への学びを深めていた。

10月には収穫作業を予定している。



田植え体験

5. 海南市立内海小学校でうめ出前授業を実施

県では、地産地消・食育の取組の一環として、県内小学校等の給食や家庭科等で使用する農水産物の提供を行っている。今回うめの提供に伴い、6月10日に海南市立内海小学校の4年生25名に対してうめの出前授業を実施した。

最初に、きいちゃんが登場し場が盛り上がる中、果樹園芸課の岩倉課長から児童へのうめの贈呈式が行われた。その後、農業水産振興課の岩橋普及指導員が「うめのお話」として、和歌山県が日本一の生産量であること、うめ栽培の歴史、うめの利用などについて話をした。

「うめジュース作り体験」では、佐々岡普及指導員が、内海公民館のボランティアの方々の助けを借りて、児童に梅と砂糖をビンに入れてうめジュースを作ってもらった。児童から「梅はいい匂いがする」、「早く飲みたい」などの感想が聞けた。また、「お母さんにジュースを飲ませてあげたい」という児童もあり、子供から家庭へ情報が広がることも多く、子供への食育の大切さを感じた。



うめのお話



うめジュース作り体験

Ⅱ 那賀振興局

1. クビアカツヤカミキリの防除啓発活動を実施

農業水産振興課では、JA紀の里モモ部会員のべ30名を対象に、那賀管内におけるクビアカツヤカミキリの被害の状況や防除の徹底について説明した。防除対策が困難ではあるが、現在有効とされる取り組みについて協力をお願いした。生産者からはさらに効果の高い防除薬剤の早期登録や、薬剤防除以外の防除方法の開発について要望があがった。

農業水産振興課では今後も、防除啓発活動や、被害調査などの被害拡大防止対策を徹底していく。



JA 紀の里モモ部会総会での啓発
(5月20日)



日川白鳳目揃え会での啓発
(6月15日)

2. 地域ぐるみでのクビアカツヤカミキリ警戒

紀の川市、岩出市では、クビアカツヤカミキリが好むバラ科果樹のモモ・スモモ・ウメ園が多く存在する。また、家庭菜園や庭先果樹としてこれらの果樹に加え、ハナモモやリンゴなどが植栽されている。この家庭菜園や庭先果樹は、管理者が農家でないことから、寄生があっても見過ごされている可能性が懸念されてきた。

そこで、那賀農業改良普及推進協議会（会長：岸本 健氏）では紀の川市、岩出市の全世帯向けにクビアカツヤカミキリ啓発チラシを作成し、6月の広報誌と同時に全世帯（世帯数：49,117戸）に配布した（右図）。非農家の方からも情報提供して頂きやすいように、LINEでも通報できるようにしたところ、6月1日以降14日までに6件通報があり、内3件がLINEからの通報で①LINEの方が土日問わず連絡ができる、②写真を送付できる、③現地確認する時に、集合場所、時間が文字として残るので、後から確認できるなど好評を頂いた。

当課としても、全職員がLINEを見ることで、情報の共有が容易になるメリットがある。新しい技術を活用し、今後も、農家のみならず、那賀地域全世帯の目でクビアカツヤカミキリ警戒に当たる。



啓発チラシ

3. 食育・交流活動の実施

～紀の川市環境保全型農業グループ・那賀地方有機農業推進協議会～

紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）は、6月6日に紀の川市立川原小学校に開設している学童農園において、全校生徒（49名）を対象に食育・交流活動を実施した。

この活動は本グループが結成された平成18年以降、会員と学校、地域が一体となって実施している取組で、現在では川原小学校の他市内2小学校でも同様に行っている。当日は、まず1・2年生（10名）がジャガイモ、続いて5・6年生（23名）がタマネギ、最後に3・4年生（16名）がニンジンの収穫を体験した。

体験を始める前に会員2名が講師役を務め、「ジャガイモはトマトやナスと親戚です」「タマネギの食用部分は根ではなく葉です」、「先生方が間引きをしてくれたので今年のニンジン立派に成長しました」といった説明の後、児童らは早速分散して収穫作業に向かった。

参加した児童は、農作物を引き抜いたとき、作物の大きさに歓喜の声を上げたり、収穫する際出てきた昆虫に驚きの声を上げるなど、収穫作業に対し一喜一憂していた。

なお、収穫したニンジン、ジャガイモ、タマネギは家庭で調理してもらうため児童各自が持ち帰るほか、市の給食センターに運ばれて肉じゃがやカレーといった給食の食材に使われる予定である。

また、那賀地方有機農業推進協議会（会長：関 弘和氏）では、6月16日に山の子保育所に対し田植え体験による食育・交流活動を実施した。会員が園児たちに植える水稻の苗について説明した後、園児たちは園長、保育士らと共に田んぼに入り実際に田植え体験を行った。その後3週間前に苗を植えたほ場に移動し、苗の大きさの比較やほ場内の生き物（カブトエビやスクミリンゴカイ）について説明していた。園児たちは活動に意欲的に取り組んでおり、田植え終了後の講義では、自分たちが植えた苗も同様に大きくなることに期待したり、ほ場内の生き物を捕獲する等楽しんでいた。

なお、育ったお米は収穫後保育所が購入し給食に利用される予定である。

農業水産振興課では、食育・交流活動を行う両グループの自主的な取組を今後も支援していく。



農家の話を聞く（川原小学校）



ニンジンの収穫（川原小学校）



米づくりの説明（山の子保育所）



田植え作業（山の子保育所）

4. 黒豆定植イベントを開催 ～紀の川市鞆渕地区～

ともぶち地域活性化実行委員会（会長：井中啓泰氏）は、6月18日に紀の川市鞆渕地区で黒豆定植イベントを開催し、県内外から37組（約110名）の参加があった。

参加者は定植方法の説明を受けた後、1区画に10株定植した。今回初めて参加したという親子は「普段の生活では農業に接する機会がないので、とても良い体験ができた。収穫が楽しみ」と満足していた。定植後、実行委員会のメンバーがこの辺りではウサギやシカ、イノシシなどの獣害が多いことから、ほ場周囲に防獣ネットを張って回った。

また、黒豆定植の他、ジャガイモ・タマネギの収穫体験や、子供を対象とした紙飛行機・竹とんぼ作りも行われた。ショベルで掘り起こしの補助をしてもらいながら、収穫かごいっぱい収穫していたリピーターの男性は「一人では到底食べきれないので、近所親戚に配ってあげたい」と喜んでた。

なお、10月8日には黒枝豆収穫イベント、12月3日には黒大豆収穫イベントを開催する予定である。

農業水産振興課では、今後ともともぶち地域活性化実行委員会の紀の川市鞆渕地区での活動を支援していく。



黒豆の定植



ジャガイモ・タマネギ収穫

Ⅲ 伊都振興局

1. クビアカツヤカミキリ特別警戒調査の実施

伊都地方では、スモモ・モモ・ウメおよびサクラなどの樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による被害樹が、かつらぎ町を中心に橋本市、九度山町において増加している。令和4年4月末までの被害樹累積は、かつらぎ町では、スモモ36地点226本、モモ40地点139本、ウメ11地点30本であった。橋本市では、スモモ12地点33本、モモ18地点23本、ウメ15地点25本であった。九度山町では、スモモ1地点1本であった。

被害の早期発見と対策を目的に、5月23日から6月17日までの8日間、JA紀北かわかみ・橋本市・かつらぎ町・九度山町・NOSA Iわかやま・JAグループわかやま農業振興センター・県の関係機関など、のべ約220人が既発生園の地域周辺を中心として、特別警戒調査を実施した。かつらぎ町で約1350地点、橋本市で約400地点、九度山町で約50地点の調査を行い、76地点で新たな被害を確認した。

今回の調査においても、新たな被害発生園や既発園地点や既発生園での新規被害樹が確認された。また、本年の成虫の発生は6月10日から確認され、市町、JAと成虫捕殺に取り組んでいる。今後も引き続き、被害の早期発見、早期対策に取り組み、被害の拡大防止のため防除啓発及び防除指導に取り組んでいく。



調査方法の説明



ウメ園の調査

2. 食育活動として小学校へのうめの出前授業を実施

6月14日、農業水産振興課は、かつらぎ町立渋田小学校で5年生15名を対象に、梅の出前授業を行った。

この授業は、児童らが県産果実の知識を深め、農業の理解促進と郷土愛や食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的として行っている。

最初に当課の矢部普及指導員から、県内のうめの生産量や品種、栽培方法について説明し、続いて当課高垣技師から梅ジュースの作り方についての説明を行った。

その後、児童は家庭科室において実際にうめジュースづくりを行った。児童からは、

「うめはとてもいい匂いがしておいしそう」、「うめジュースが出来上がるのが楽しみ」という声が多く上がった。

当課では、引き続き地元の特産物や加工食材についての食育を推進していく。



うめの栽培・収穫について説明



うめジュースづくりの様子

IV 有田振興局

1. 宮原小学校で和歌山県の果物について授業を開催！

有田川町立宮原小学校では、地元産業への理解を深めるため、総合的な学習の時間で、イチゴの授業を行っている。

6月2日、農業水産振興課は、6年生37名を対象に、「和歌山県の果物について」授業を行った。

授業では、城村普及指導員が県内の果樹の栽培状況や日本一の収穫量を誇る地元有田みかん及び日本農業遺産について説明した。その後はイチゴ栽培農家の地域農業士松本智行氏からイチゴ栽培について話をして頂き、将来職業の選択肢のひとつとしてぜひ農業も考えて欲しいと熱く語って頂いた。

児童からは、「和歌山県にこれほど日本一の栽培量を誇る果物があるとは知らなかった」「これからも積極的に果物を食べていく」という感想があった。

当課では、農業教育を推進、引き続き学習への支援を行っていく。



和歌山県の果物についての授業



松本智行氏によるイチゴ栽培の説明

2. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催！

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催のもと、アイガモ農法による米づくりに取り組んでおり、今年度は6月8日に5年生による苗取り作業を、6月9日に全校生徒による田植えが行われた。

地元農家20名が支援し、「田んぼの学校」校長である山崎佳彦氏（元指導農業士）が田植えの方法について説明した後、児童は一列に並び、慣れない田んぼに足をすくわれながらも1株ずつ丁寧に植えていった。

終了後、児童からは「もっとやりたい」や「稲刈りが楽しみ」などの声が聞かれた。

また、同月16日には児童が孵化させたアイガモのヒナと購入したヒナ計26羽を田んぼに放った。

農業水産振興課では、今後も地域の農業者とともに、食育活動の支援を行っていく。



5年生による苗取り作業



田植えの説明をする山崎氏



田植え



放鳥する児童ら

3. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」侵入実態巡回調査

モモ・ウメ・スモモなど主にバラ科の樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による被害が県北部で拡大している。このクビアカツヤカミキリが県中部の有田地域に侵入していないか確認するためJAありだと共同で6月15日、17日、22日の3日間、参加者のべ8人で巡回調査を行った。調査は10園地、スモモ147樹、モモ42樹、ウメ73樹で行った。

今回の調査で被害は確認されなかった。今後も継続的に調査を実施するとともに、チラシ等による啓発活動を行っていく。



巡回調査

4. 有田農業技術者会総会及び研修会を開催

6月24日、有田振興局において有田農業技術者会（構成：農業水産振興課、果樹試験場、JAありだ、NOSA Iわかやま、土地改良区、農業関係教育機関等、事務局：農業水産振興課）の総会・研修会を開催し、会員23名が出席した。

当日は、令和3年度の事業報告・会計報告と令和4年度の事業計画、予算案、新役員案がすべて承認され、会長に当課の城村普及指導員、副会長にJAありだの桑原氏が選任され、取り組みは、かん水情報の提供やチャノキイロアザミウマ等の発生予察調査、研修会等の実施が計画された。

研修会では、果樹試験場 中地栽培部長から今年の温州みかんの生育状況と今後の栽培管理について、武田主査研究員よりカンキツ灰色カビ病および黒点病について、松山研究員よりカイガラムシ類の生態と防除対策について、講義を受けた。

当課は事務局として、円滑な運営をサポートしていく。



総会



研修会

5. 御霊小学校でみかんの摘果授業を開催！

有田川町立御霊小学校では、地元産業への理解を深めるため、3年生（59名）の総合的な学習の授業で温州みかんの学習を行っている。

6月30日、第1回目の学習としてみかんの摘果授業を行った。授業では、城村普及指導員がみかんの栽培管理を説明し、その後、有田川町地域農業士の玉置泰伸氏指導のもと近隣の園地で摘果体験を行い、収穫までの課程を見るために、児童それぞれが果実にラベルを巻いた。

児童からは、「どの実を摘果したらいいの？」、「摘果しないとどうなるの？」といった質問が数多く飛び出した。また、昨年認定された日本農業遺産について説明を行った。農業水産振興課では、今後も農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



みかんの栽培管理についての授業



玉置泰伸氏による農作業の説明



摘果体験

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】

～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～

クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定されている害虫で、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木の内部を激しく食害する。県では、令和元年11月にかつらぎ町で初めて本虫による被害が確認された後、県北部で被害が拡大傾向であり、今後日高地方への侵入が強く懸念されている。

そこで5月24日～6月8日、日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）は、クビアカツヤカミキリの侵入警戒のため、日高全域のサクラ樹植栽地85か所（計2,812本）を巡回調査（延べ48名参加）した。サクラ樹の主幹根元から4m位置まで、1樹ずつ調査を行ったが、クビアカツヤカミキリのフラス（幼虫の排泄物と木くずが混ざったもの）等の発生は確認されなかった。

また、ウメ園でも日高果樹技術者協議会によるウメ着果調査（4月下旬、5月中旬の2回、140園）と併せてクビアカツヤカミキリを調査したが、発生は確認されなかった。

今後も当課では、継続的にサクラ樹植栽地やウメ園の巡回調査を行うとともに、各市町やJAの広報紙の活用や防除啓発チラシの配布等により、生産者及び一般住民への啓発を行っていく。



クビアカツヤカミキリのフラス発生状況調査（御坊市、印南町）

VI 西牟婁振興局

1. 田辺第一小学校で「うめの出前授業」を実施

県では地産地消の取組として、平成24年度から県内小学校・特別支援学校の給食や家庭科等の教材に県産農水産物の提供を行っている。今回は第1弾として、6月16日、田辺市立田辺第一小学校3年生（20名）を対象に、うめの出前授業を実施した。

最初に、当課の江畑普及指導員がうめの生産量や栽培方法のほか、うめポリフェノールが新型コロナウイルスに阻害効果をもつという研究報告について、イラスト入りの資料等を使って分かりやすく説明した。

次に、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会長の田中直美氏が、ちょうどうめの収穫時期で、朝早く起きて家族でうめを採っていること、今年も沢山の実がなり、とても嬉しいことなどうめ農家の苦労や喜びを話した。その後、冷凍うめを使ったうめジュースの作り方を実演し、児童が冷凍梅と砂糖を交互に広口ビンに入れ、うめジュースづくりを体験した。

児童からは、「うめが体によいことがわかった」、「うめジュースは簡単に作れたので家でも作ってみたい」、「うめジュースはどんなところで保存したらよいのか」等の感想や質問があった。

当課では今後も関係機関と連携しながら、食育を推進していく。



うめのお話



うめジュースづくり

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】 ～イチゴ炭そ病対策研修及びイチゴ炭そ病の簡易検定を実施～

5月25日、農業水産振興課は、JAみくまのと共催でJAみくまのトレーニングファームの研修生（準備型）と同ファーム研修候補者、イチゴの新規就農者（同ファーム修了者）の3名を対象に、新規就農者の育成とイチゴの安定生産を目的にイチゴ炭そ病対策研修（第1回イチゴセミナー）をJAみくまの営農経済センターで実施した。

研修では、坂井普及指導員がイチゴの重要病害である炭そ病の被害程度や防除方法、炭そ病検定の必要性和簡易検定方法を研修生に説明した。JAみくまの笹平主事と岩橋普及指導員の指導のもと、採取した葉でイチゴ炭そ病簡易検定を実習を行った。

前処理として、研修者が採取した10検体と管内のイチゴ農家10戸から採取した35検体について、葉の洗浄やエタノールで殺菌をして、乾燥後にシャーレに入れ、潜在感染している菌の発現を促すために恒温器（28℃）で2週間保管した。

6月8日、当課は前回参加者とともに、葉に発生した孢子塊から炭そ病感染の有・無を判定し、採取した農家に検定結果とその対処方法を伝えた。

当課では、今後も関係機関と連携して、イチゴセミナーや現地検討会により研修生や新規就農者の技術向上と産地の振興を図っていく。



炭そ病簡易検定の前処理実習(5月25日)



炭そ病簡易検定の判定(6月8日)

2. くろしおナス組合が現地検討会を実施

6月23日、くろしおナス組合（会長：松本安弘氏）は、那智勝浦町及び新宮市の会員の各園地を巡回してナスの生育・着果状況等を調査した。生産者及び市場関係者、JAみくまの、農業水産振興課併せて11名が現地で検討した。

ナスの生育状況は、全体としてほぼ平年並であった。園地によっては、うどんこ病の発生やオオタバコガやカスミカメムシ類による新葉の加害があり、防除方法について参加者同士で意見交換した。また、坂井普及指導員から、防除暦例についての説明を行った。

新規栽培者は、枝の誘引方法や整枝方法について先輩農家に質疑応答して、有意義な検討会になった。

当課では、今後とも関係機関とともにくろしおナス組合の栽培技術向上の支援を行い、収量増加と高品質化を目指していく。



ナス園地での検討会（那智勝浦町）



ナス園地での検討会（新宮市）

3. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催

6月30日、新宮周辺地場産青果物対策協議会（構成：くろしお熊野野菜グループ、市場、市場、JAみくまの、市町村、農業水産振興課、会長：小田三郎氏）は、18名の参加のもと総会及び現地研修会を開催した。

総会では、冒頭に小田会長から「地場産青果物の取扱量は、年々減少している。協議会内の関係機関が連携して、安定供給を目指したい。」と挨拶があった。引き続き、令和3年度事業報告、収支決算、令和4年度事業計画について審議され、すべて承認された。

その後、ナス、オクラ、トウモロコシの栽培ほ場に移動し、現地研修会が行われ、当課坂井普及指導員から地域の栽培の歴史や概要について説明があった後、栽培方法等について参加者と栽培者で質疑応答があった。

当課では、関係機関と連携し、新宮周辺地場産青果物対策協議会およびくろしお熊野やさいグループの活動を支援していく。



総会実施状況



現地検討会（オクラ）実施状況

Ⅷ 農林大学校

1. GAP 講義・MPS 及び GAP 演習を実施

6月16日に1年生を対象に第2回GAP（農業生産工程管理）講義を、6月6日に2年生を対象に第1回MPS及びGAP演習を実施した。

あらゆる分野でSDGsの取組が進む中、農業では「つくる責任」があり、食用である果物や野菜はもちろん非食用である花きにおいても、環境に配慮した対応が求められている。農林大学校では、平成30年からカキの輸出やカキ及びトマトのグローバルGAP認証取得など、農業のグローバル化に対応するためのカリキュラムに取り組んできた。現在、1年次でGAPの基礎知識などを学んだうえで、2年次では演習を行うこととしている。

GAP講義（外部講師：服部一成氏）は来年1月までに全7回、MPS及びGAP演習は10月までに全12回実施する。MPS及びGAP演習は、本校職員に加えてコンサルティング会社からも講師を迎え、学生自ら「食の安全」、「労働安全」、「環境保全」等のリスク管理について体系的かつ実践的に学習する。さらに、授業を通じて令和4年度中の花きにおけるMPS-ABC（生産過程の農薬・肥料・エネルギー等の環境負荷低減への取組み）認証取得とカキおよびトマトのグローバルGAP継続認証取得を目指す。



講義風景（1年生）



グループ討議を行う学生達（2年生）

2. 2年生のインターンシップ研修

6月10日～24日、本校2年生16名を対象にインターンシップ研修を行った。この研修は、学生が自らの希望進路に合った農家や企業等での就業体験を通じて、職業観や社会人としての意識を醸成することを目的としている。1年次の11月にも実施したが、今回は卒業後の進路に応じた研修先で研修を受講したため、半数が前回と違う研修先で就業体験をした。

学生は、それぞれの場所で普段の学校生活では体験できない作業や、年齢の離れた方との共同作業に苦戦しながら、卒業後の進路に向けてよい刺激を受けることができた。

学生を受け入れてくださった農家・法人の皆様には感謝するとともに、大半が農業に関わる仕事に就きたいとのことで学生の今後の活躍を期待したい。



シウウガの収穫



ブロッコリーの収穫



農場でお世話になった方々と



受入農家の皆さんと

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489